

中期目標の達成状況に関する評価結果

滋賀医科大学

平成29年6月

大学改革支援・学位授与機構

目 次

法人の特徴	1
(法人の達成状況報告書から転載)		
評価結果		
《概要》	3
《本文》	5
《判定結果一覧表》	11

法人の特徴

大学の基本的な目標（中期目標前文）

一県一医大構想のもと地域の大きな期待により開学された滋賀医科大学は、地域に支えられ世界に挑戦する大学として、「患者の立場に立った人に優しい全人的医療教育」、「地域医療への理解」や「独自の倫理教育」、「臨床能力の高い人材の育成」等を実践する各種プログラムを活用した医学・看護学教育を推進することにより、高度専門医療人の育成と創造性に富んだ研究者を輩出することを使命とする。

研究面では、サルを用いた再生医学研究、アルツハイマー病等の神経難病研究、MR医学、総合がん医療推進研究や生活習慣病等の重点研究を中心に本学独自の研究活動を推進し、その成果を世界に発信していくことを目標とする。

診療面では、病院再開発に連動した医療の高度化と安全、心の通う医療サービスの提供と地域医療連携体制の整備に取り組むことを目標とする。

また、教育・研究・診療等の活性化を通じて地域に貢献するとともに、産学官連携等を推進することで各種の活動成果を社会に還元する。

本目標を達成するにあたり、近江の地に根ざす「三方よし」の教えを教職員全体で共有しつつ、学生及び地域の期待に応えられるよう、社会的責任を自覚した大学運営にあたる。

1. 教育については、医学部では、解剖体慰霊式等を通じた倫理観の涵養や、医師不足など社会的な要請にも応えた教育をしており、地域の住民や診療所等の協力も得ながら医療人を育成している。また、大学院では、各コースに特徴的なプログラムも取り入れながら実施している。
2. 研究については、上記に掲げた5つの重点研究に加え、若手研究者による研究、看護研究並びに基礎医学と臨床医学が一体となった研究を推進することとしている。
3. 社会連携・社会貢献、国際化については、滋賀県唯一の医科大学、特定機能病院として、医学・医療をテーマに公開講座や県内高等学校を中心とした高大連携事業、小、中、高校生への出前授業等を通じた教育の実施や、県内の状況を踏まえた医療面での貢献を行っている。また、国際面では、国際交流協定の締結機関の拡大や交流の促進に努めている。

[個性の伸長に向けた取組]

- 将来、滋賀県で医療に従事することを希望する医学生と看護学生を、入学時から地域で活躍する同窓生や地域に暮らす住民が「里親」、「プチ里親」となって支援、交流して、県内の病院等も訪問しながら、地域医療に対する関心を持続・発展させることを、医師会、看護協会、地域の医療機関等が結集したNPO法人とともに取り組んでいる（関連する中期計画）計画1-2-1-2。
- 本学動物生命科学センターはカニクイザル 800 頭を飼育できる日本で有数かつ国立大学法人では最大規模の施設であり、世界的にも稀なカニクイザル非臨床研究モデルの作成を通して、本学だけでなく学外の諸機関とも共同研究を活発に行っている（関連する中期計画）計画2-1-1-1。
- 滋賀県の医療状況を踏まえつつ、地域の医療機関の再生や救急医療、周産期医療、脳卒中の発症等データの登録や追跡調査等において、附属病院の機能を充実、強化しながら、研究での実績も活用して地域医療に貢献している（関連する中期計画）計画3-1-2-1。

[東日本大震災からの復旧・復興へ向けた取組等]

- 東日本大震災発生の翌日、平成23年3月12日から14日までDMAT（災害派遣医療チーム）をいわて花巻空港に派遣し、以後、医療支援チーム、心のケアチームを編成、医師、看護師及びメディカルスタッフ等を被災地各所に派遣した。
- 滋賀県の健康支援チーム、公益財団法人結核予防会の健康支援活動、文部科学省一時帰宅者スクリーニング（放射線量測定）チームにも協力して、医師等を派遣した。その後、全国医学部長病院長会議の医療支援チームが組織され、継続的に医師を派遣した。
- 学内に義援金を募り、日本赤十字社滋賀県支部に寄付した。
- これらの諸活動に対して、平成24年7月に福島県知事から、平成25年3月に厚生労働大臣から感謝状が贈られた。

評価結果

《概要》

第2期中期目標期間の教育研究の状況について、法人の特徴等を踏まえ評価を行った結果、滋賀医科大学の中期目標（大項目、中項目、小項目）の達成状況の概要は、次のとおりである。

＜判定結果の概要＞

中期目標（大項目）	判定	中期目標（小項目）の判定の分布			
		非常に優れている	良好	おおむね良好	不十分
(Ⅰ) 教育に関する目標	おおむね良好				
① 学生の受入に関する目標	おおむね良好			1	
② 教育方針、内容、方法、成果に関する目標	おおむね良好			2	
③ 学習支援と生活支援に関する目標	おおむね良好			1	
④ 教育活動に関する評価・改善システムに関する目標	おおむね良好			1	
(Ⅱ) 研究に関する目標	おおむね良好				
① 目指すべき研究水準等に関する目標	おおむね良好		1	1	
② 研究活動の活性化等に関する目標	おおむね良好			2	
(Ⅲ) その他の目標	おおむね良好				
① 社会との連携や社会貢献に関する目標	おおむね良好		1	1	
② 国際化に関する目標	おおむね良好			1	

＜主な特記すべき点＞

個性の伸長に向けた取組

- 第1期中期目標期間（平成16年度から平成21年度）に実施した一般市民参加型全人的医療教育プログラムの継続的な取組として、地域で訪問診療を受療中の患者及びその家族を訪問し、患者側の視点、一般市民が医師に求めているものを学ぶ全人的医療体験学習を第2期中期目標期間（平成22年度から平成27年度）に実施している。同じく第1期中期目標期間からの継続的な取組として、卒業生や地域に暮らす住民等が里親、プチ里親となり、滋賀県で医療に従事することを希望する医学科学生、看護学科学生と入学時から交流を行っており、学生の地域医療に対する関心を持続・向上させるための取組を実施している。（中期計画1-2-1-2）

- サルを用いた疾患モデルの確立とヒトの疾患治療法開発への応用や総合がん医療推進研究等の5つの研究を特色ある研究プロジェクトとして、学長裁量経費により支援しており、第2期中期目標期間において合計90件、7,450万円の助成を行うなど、重点的に推進を図っている。重点研究の研究成果は著名な学術誌に掲載されるとともに、がんに関する研究では、がんワクチン療法の医師主導治験を実施している。5つの研究を重点的に推進したことにより、平成22年度と平成27年度を比較すると、インパクトファクターのある学術誌への論文掲載数は86件から130件へ、国際学会発表件数は11件から46件へそれぞれ増加している。（中期計画2-1-1-1）

- 平成22年度から実施している地域の医療機関への医師の派遣や、平成24年度のがん治療へのロボット手術装置 da Vinci の導入等、地域の医療機関の支援を行っている。これらの取組を踏まえ、平成25年度に地域医療支援に関する将来構想を策定し、診療面での地域貢献を推進している。特に、患者支援センターによる地域医療機関との連携について、紹介率は平成22年度の67.2%から平成27年度の77.8%へ、逆紹介率は平成22年度の43.5%から平成27年度の60.9%へそれぞれ増加している。（中期計画3-1-2-1）

＜復旧・復興への貢献・支援活動等に関係した顕著な取組＞

- 東日本大震災発生の翌日、平成23年3月12日から14日までDMAT（災害派遣医療チーム）をいわて花巻空港に派遣し、以後、医療支援チーム、心のケアチームを編成、医師、看護師及びメディカルスタッフ等を被災地各所に派遣した。

このほかの取組は、法人の特徴「東日本大震災からの復旧・復興へ向けた取組等」欄にあるとおりである。

《本文》

(I) 教育に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育に関する目標」に関する中期目標（4項目）のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) 学生の受入に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「学生の受入に関する目標」の下に定められている具体的な目標（1項目）が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

(2) 教育方針、内容、方法、成果に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育方針、内容、方法、成果に関する目標」の下に定められている具体的な目標（2項目）のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

○地域と連携した教育プログラムの実施

中期目標（小項目）「【学士課程】 深い教養、確固たる倫理観と医学及び看護学の高い専門的知識及び臨床技能を授けるとともに、旺盛な探究心を有する人材を育成する。」について、第1期中期目標期間（平成16年度から平成21年度）に実施した一般市民参加型全人的医療教育プログラムの継続的な取組として、地域で訪問診療を受療中の患者及びその家族を訪問し、患者側の視点、一般市民が医師に求めているものを学ぶ全人的医療体験学習を第2期中期目標期間（平成22年度から平成27年度）に実施している。同じく第1期中期目標期間からの継続的な取組として、卒業生や地域に暮らす住民等が里親、プチ里親とな

り、滋賀県で医療に従事することを希望する医学科学生、看護学科学生と入学時から交流を行っており、学生の地域医療に対する関心を持続・向上させるための取組を実施している。（中期計画 1-2-1-2）

（3）学習支援と生活支援に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由）「学習支援と生活支援に関する目標」の下に定められている具体的な目標（1項目）が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

（4）教育活動に関する評価・改善システムに関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由）「教育活動に関する評価・改善システムに関する目標」の下に定められている具体的な目標（1項目）が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

(Ⅱ) 研究に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「研究に関する目標」に関する中期目標(2項目)のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) 目指すべき研究水準等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「目指すべき研究水準等に関する目標」の下に定められている具体的な目標(2項目)のうち、1項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

○特色ある研究プロジェクトの重点的推進

中期目標(小項目)「本学を特徴づける先端的医学・医療のプロジェクト研究を推進する。」について、サルを用いた疾患モデルの確立とヒトの疾患治療法開発への応用や総合がん医療推進研究等の5つの研究を特色ある研究プロジェクトとして、学長裁量経費により支援しており、第2期中期目標期間において合計90件、7,450万円の助成を行うなど、重点的に推進を図っている。重点研究の研究成果は著名な学術誌に掲載されるとともに、がんに関する研究では、がんワクチン療法の医師主導治験を実施している。5つの研究を重点的に推進したことにより、平成22年度と平成27年度を比較すると、インパクトファクターのある学術誌への論文掲載数は86件から130件へ、国際学会発表件数は11件から46件へそれぞれ増加している。(中期計画2-1-1-1)

(2) 研究活動の活性化等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「研究活動の活性化等に関する目標」の下に定められている具体的な目標(2項目)のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

○大学機関リポジトリの整備・充実

中期目標(小項目)「研究の成果についての検証及び情報発信を推進する。」について、平成23年度から学術研究成果や学術資料を電子的に保存する大学機関リポジトリびわ庫を更新し、国立情報学研究所の JAIRO やミシガン大学(米国)の OAster 等のデータベースに学術研究成果等が自動で登録されるよう構築するなどの整備・充実を図っている。この結果、登録件数は平成24年度の1,897件から平成27年度の2,906件へ増加している。(中期計画2-2-2-2)

(Ⅲ) その他の目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「その他の目標」に関する中期目標(2項目)のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) 社会との連携や社会貢献に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「社会との連携や社会貢献に関する目標」の下に定められている具体的な目標(2項目)のうち、1項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

○医療に関する公開講座の開催

中期目標(小項目)「地域との連携による教育サービスの提供及び産学官連携による研究成果等の社会への還元により、地域社会の活性化や地域貢献の役割を果たす。」について、公開講座を通じて、一般市民に向け医療に関する様々な知識を提供している。公開講座の開催回数、参加者数について、第1期中期目標期間と第2期中期目標期間の年平均を比較すると、開催回数は19回から32回へ、参加者数は1,614名から1,814名へそれぞれ増加している。(中期計画3-1-1-1)

○地域医療支援に関する将来構想の策定、推進

中期目標(小項目)「地域中核病院として、他の医療機関や行政と連携し、県民に必要な医療サービスを提供することにより、地域医療に貢献する。」について、平成22年度から実施している地域の医療機関への医師の派遣や、平成24年度のがん治療へのロボット手術装置 da Vinci の導入等、地域の医療機関の支援を行っている。これらの取組を踏まえ、平成25年度に地域医療支援に関する将来構想を策定し、診療面での地域貢献を推進している。特に、患者支援センターによる地域医療機関との連携について、紹介率は平成22年度の67.2%から平成27年度の77.8%へ、逆紹介率は平成22年度の43.5%から平成27年度の60.9%へそれぞれ増加している。(中期計画3-1-2-1)

(2) 国際化に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「国際化に関する目標」の下に定められている具体的な目標(1項目)が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

《判定結果一覧表》

中期目標（大項目）		判定	特記すべき点
中期目標（中項目）			
中期目標（小項目）			
計画番号	中期計画		
(I) 教育に関する目標		おおむね良好	
① 学生の受入に関する目標		おおむね良好	
<p>本学の教育理念に立脚し、医学及び看護学の修得に真摯にまた熱意を持って取り組む者を求め、医療人として社会に貢献できる学生を選抜する。</p>		おおむね良好	
1-1-1-1	幅広い基礎学力と学習意欲を有する学生の受入や、卒業生の地域定着率向上など様々な社会のニーズを考慮し、受入方針、受入枠、学生選抜方法等の継続的な分析・見直しを実施する。	おおむね良好	
1-1-1-2	大学の特徴や魅力、受入方針の周知を図り、中期目標に掲げる学生選抜を実施する。	おおむね良好	
1-1-1-3	小・中・高校生に対して、医学・医療現場に接する機会を積極的に設ける。	おおむね良好	
② 教育方針、内容、方法、成果に関する目標		おおむね良好	
<p>【学士課程】 深い教養、確固たる倫理観と医学及び看護学の高い専門的知識及び臨床技能を授けるとともに、旺盛な探究心を有する人材を育成する。</p>		おおむね良好	
1-2-1-1	<p>【学士課程】 解剖体慰霊式や解剖体納骨慰霊法要への学生参加、早期体験学習等を通じ、本学独自の倫理教育を実践する。</p>	おおむね良好	
1-2-1-2	<p>【学士課程】 これまで実施してきた教育改革プログラム（各種GP）の成果を踏まえ、地域ぐるみで全人的医療教育を推進する。</p>	良好	優れた点
1-2-1-3	<p>【学士課程】 科学的探究心の高い人材を育成するため、少人数能動学習、自主研修、看護研究等の特徴ある授業を実施する。</p>	おおむね良好	
1-2-1-4	<p>【学士課程】 患者シミュレーションや救急蘇生シミュレーション機能等を保持するスキルズラボを活用し、実践力を有する人材を育成する。</p>	おおむね良好	
1-2-1-5	<p>【学士課程】 医師国家試験、看護師国家試験、保健師国家試験、助産師国家試験の新規卒業者の合格率は、95%以上を目指す。</p>	おおむね良好	
<p>【大学院課程】 高度な研究能力と、深い学識及び豊かな人間性を備えた研究者ならびに上級専門職を育成する。</p>		おおむね良好	
1-2-2-1	<p>【大学院課程】 学問・研究の進展及び社会からの要請に応じて、新たな医学・看護学研究に関する教育プログラムの構築や、医療・福祉・保健をテーマとした隣近大学との大学間連携構想を推進する。</p>	おおむね良好	
1-2-2-2	<p>【大学院課程】 大学院教育の更なる実質化を図るため、社会人入学者も含むカリキュラムの再編成、研究技術教育の実施、プログレスレポート・中間発表会を通じての研究指導の徹底等を行う。</p>	おおむね良好	

中期目標（大項目）		判定	特記すべき点
中期目標（中項目）			
中期目標（小項目）			
計画番号	中期計画		
③ 学習支援と生活支援に関する目標		おおむね良好	
キャンパスは学生の生活の場であるとの視点に立ち多様な学生に対応した学習支援と生活支援を行う。		おおむね良好	
1-3-1-1	学生の要望を把握し、多様な学生のニーズに応じた適切な学習支援や生活支援を行う。	おおむね良好	
④ 教育活動に関する評価・改善システムに関する目標		おおむね良好	
教育活動の問題点を把握し、それを改善につなげる取組により、教育の質向上と活性化を目指す。		おおむね良好	
1-4-1-1	教員・学生・第三者による授業評価及び卒業生、卒業生が従事する医療機関からのアンケート等により教育活動の問題点を把握し、改善を図る。また、適切な教員研修や教員表彰等を実施する。	おおむね良好	
(Ⅱ) 研究に関する目標		おおむね良好	
① 目指すべき研究水準等に関する目標		おおむね良好	
本学を特徴づける先端的医学・医療のプロジェクト研究を推進する。		良好	
2-1-1-1	5つの研究を特色ある研究プロジェクトとして重点的に推進する。 1) サルを用いた疾患モデルの確立とヒトの疾患治療法開発への応用 2) 神経難病研究 3) MR医学と分子イメージング研究 4) 生活習慣病医学 5) 総合がん医療推進研究	良好	優れた点
独創性があり、社会性のある萌芽研究を育成する。		おおむね良好	
2-1-2-1	若手研究者による研究等、次代を担う独創的萌芽研究を支援する。	おおむね良好	
2-1-2-2	社会のニーズにあった独創的看護研究を推進する。	おおむね良好	
② 研究活動の活性化等に関する目標		おおむね良好	
研究施設、講座の枠を越えた研究組織を構築し、研究者間の連携を高め、研究活動を活性化する。		おおむね良好	
2-2-1-1	研究テーマごとに基礎研究者と臨床医が一体となった研究グループを組織し、戦略的研究を推進する。	おおむね良好	
研究の成果についての検証及び情報発信を推進する。		おおむね良好	
2-2-2-1	プロジェクト研究等の目標と計画を定め、成果を適切に評価する。	おおむね良好	
2-2-2-2	研究業績データベース等をさらに整備・充実し、研究成果の情報発信を推進するとともに、産学官連携のための資料として活用する。	良好	優れた点

中期目標（大項目）		判定	特記すべき点
中期目標（中項目）			
中期目標（小項目）			
計画番号	中期計画		
(Ⅲ) その他の目標		おおむね良好	
① 社会との連携や社会貢献に関する目標		おおむね良好	
地域との連携による教育サービスの提供及び産学官連携による研究成果等の社会への還元により、地域社会の活性化や地域貢献の役割を果たす。		おおむね良好	
3-1-1-1	地域の各機関等と連携し、教育サービスを提供する。	良好	優れた点
3-1-1-2	滋賀県及び近隣企業や大学等と連携・協力し、産学官連携等を推進する。	おおむね良好	
地域中核病院として、他の医療機関や行政と連携し、県民に必要な医療サービスを提供することにより、地域医療に貢献する。		良好	
3-1-2-1	地域における不可欠な医療分野への本院の対応に関する地域医療支援将来構想を策定し、診療面での地域貢献を推進する。	良好	優れた点
② 国際化に関する目標		おおむね良好	
国際感覚のある医療人育成や国際共同研究の活性化を図ることで、国際貢献の役割を果たす。		おおむね良好	
3-2-1-1	学術交流協定等に基づく組織的な交流の促進と、国際化のための環境を整備する。	おおむね良好	
3-2-1-2	学生や研究者等の交流や国際共同研究、国際会議・国際シンポジウム等の実施や医療技術者等との交流を通じて、国際貢献の役割を果たす。	おおむね良好	